

5. タイ

(1) タイ人について

タイ人のプロフィール

- ・ タイの人口は約 6,580 万人(2007 年 9 月 暫定値)。民族別では、タイ族(約 80%)、華僑(約 10%)、マレー族や山岳少数民族(約 10%)にて構成される。宗教別では、仏教(約 94%)、イスラム教(約 5%)、その他宗教にて構成される。使用言語は、タイ語、中国語(中国系の一部)、マレー語(南部の一部)である。
- ・ 北部・東北部と中部・南部では風俗や習慣も大きく異なるが、主要な民族をまとめてタイ人と呼ぶ。



(出典：外務省ホームページ)

訪日タイ人旅行者の特徴

- ・ 日本を訪れるタイ旅行者は約 16 万 7,000 人(2007 年)、平均 10.1 日間滞在する(2006 年)。男性と女性が約 5 : 5 の割合で、性年齢別では女性 30 代(約 17%)、男性 30 代(約 14%)、女性 40 代(約 12.5%)の順に多い(2006 年)。

訪日タイ人旅行者に人気の観光地

- ・ 東京(TDR 含む)、大阪(USJ 含む)、富士山、北海道、京都など。福岡、広島、仙台の人気も高い。

訪日タイ人旅行者が日本で好きなもの

- ・ 新幹線の乗車、桜、富士山、日本の食事、ショッピング(女性化粧品、食品・菓子類、ブランド衣料品、100 円ショップ、家電製品など)、テーマパークなどに高い関心を示している。若者を中心に、ファッション、漫画、アニメの人気も高い。
- ・ 日本に対して「清潔」「安全」「規則正しい」「高い技術を持っている」「ファッションの中心地」「日本製品は高品質」「ハイテク」「固有の自然と文化」「グルメ」「アニメ」という印象を持っている。

(2) タイ人の食習慣

食に対する意識

- ・ 食に対する関心は非常に高く、グルメへの関心がこれまでになく高まっている。仏教徒が多いタイでは食に関するタブーが少ない。
- ・ レストランの雰囲気や環境よりも、料理のおいしさを重視する。外観や雰囲気がよいお店より、汚くてもおいしいお店（屋台でもレストランでも）の方に人気がある。
- ・ お菓子が大好きで、食後に甘いものを口にしないと食事が終わった気がしない。

日常の食事パターン例

- ・ タイ人の食事回数は1日3~5食（1日に何度も食事を取る人もいる）。
- ・ 1回の食事の分量が少ない。
- ・ 市場の料理を利用しながら家庭料理を作ることが多い（外食ではおかずを持ち帰ることができるため）。
- ・ 夕食後、夜に軽くお粥を食べることも多くみられる。

タイ料理の特徴

- ・ 主食（中部と南部は米、北部と東北部はもち米）、副食（多様な食材に調味料や香辛料を加えたおかず）が基本メニューである。副食は魚が中心で基本的な食材として使われるが、次いでエビ、その他にも鶏、アヒル、野菜などが使われる（豚肉と牛肉はほとんど使われない。魚とエビは淡水のもの。タコやイカは使わない）。調味料や香辛料には、トウガラシ、ナンプラー（塩漬け魚の熟成汁）、ハーブ類などが使われる。
- ・ テーブルの中央に何種類かのおかずが置かれるので、一人ひとりに供されたご飯におかずをかけて食べる。通常、テーブルの上にはいつも調味料セット（ナンプラー、砂糖、トウガラシ、酢）が置いてあり、自分で味付けを調整する。
- ・ 屋台では、軽い食事から高級料理まで楽しむことができる。一杯飯屋では、ご飯におかずや汁をかけて食べるのが一般的である。
- ・ タイ社会では中国人が非常に身近な存在であったため、中華料理をベースにしたタイ風中華料理も多くみられる。麺類は米の粉を使ったものが主流である（その他に小麦やうるち米を使った麺類もある）。
- ・ 各地域（主に中部、東北部、北部、南部の4地域）には、それぞれ異なる特徴の料理が存在する（外国人に一般的なものは中部の料理）。
- ・ 特に大都市では、タイ料理以外に、日本料理をはじめとする様々な国の料理を楽しむことができる。タイでは、健康食としての日本食に人気が集まっており、和食のレストランや寿司屋などが存在し、寿司、ラーメン、うどん、トンカツ、天ぷら、焼き魚などが幅広く好まれている。

- ・ 飲み物は基本的に冷たい水を飲む（正式な飲み物と考えられている）。清涼飲料水は、ほとんどがペプシ・コーラを飲む。基本にお茶は飲まない。アルコール飲料は、ビールが一般的である。

食に対する禁止事項と嫌悪感

- ・ マレー系のイスラム教徒は、豚肉を食べず、アルコールも飲まない。
- ・ 中華系で観音信仰を信じる人は牛肉を食べないこともある。
- ・ タイでは、特に理由もなく牛肉を食べないという人も多い（食材としての関心がそれほど高くない）。
- ・ 一般のタイ人の食生活には洋食はほとんど見られないため、洋食全般を食べる習慣がない人が多い。パンもほとんど食べない。
- ・ 牛乳が苦手な人もいる。

テーブルマナー

- ・ 食事は床でする場合もあれば、テーブルでする場合もある。
- ・ スプーンとフォークを使う。もち米は手を使う（北部と東北部で供される）。麺類と中華料理は箸を使う。
- ・ 目上の人と同席する場合、目上の人を敬いながら食事を取る（目上の人から先に食事に手を付けるなど）。
- ・ 食器は持ち上げず、机に置いたままで食べる（食器には直接口を付けない）。
- ・ 音を立てて食事をするのは厳禁である（スープ、麺類など）。
- ・ 一度に料理を沢山取り分けて、自分の皿にまとめない。
- ・ チップの習慣はない。

日本の食事で好まれるもの

< 食事内容 >

- ・ 日本食や緑茶は、身体によいというイメージがあり、人気が高い。
- ・ 焼肉、しゃぶしゃぶ、すき焼き、天ぷら（特にエビ天ぷら）、うな井も人気である。焼き肉やしゃぶしゃぶの食べ放題のお店も人気が高い。
- ・ 富裕層の間では寿司の人気が高い。
- ・ 日本のレンコンとタケノコは、タイのものと比較して、非常に立派でおいしいため、とても好んで食べられる。

日本の食事で嫌われるもの

< 食事内容 >

- ・ タイの和食レストランの味に慣れている人には、日本の和食の味付けをあまりおいしいと思わない人もいる。
- ・ タイ料理の持つ辛み、甘み、酸味、塩味の調和は独特であるため、日本の食事に馴染まない人もいる。

- ・ タイ北部・東北部の人はもち米を主食にしており、日本のお米を食べても食事を食べた気持ちにならない場合が多い。
- ・ 一般の人は生魚を食べることに抵抗を感じる。
- ・ 食事中にお茶が出されることを嫌う(タイでは食事中にお茶を飲む習慣がない。食事中は基本的に冷たい水を飲む)。

タイ人に対して良いおもてなしをするための推奨事項

<食事内容>

- ・ 冷めた食事を好まないため、なるべく温かい状態で料理を出すことよい。
- ・ タイ人にも辛いものが苦手な人がいるため、確認をせずに辛い料理を提供することは避けなければならない。一般に、中華系と富裕層は辛いものが苦手で、労働者は辛いものに強いという傾向がある。
- ・ 本物の日本食、本当においしい料理を提供すると、とても喜ぶ。
- ・ タイ北部・東北部の人には、もち米でご飯を炊くと喜んでもらえる。
- ・ 日本のレンコンとタケノコを食材として使うと、とても喜ばれる(レンコンとタケノコは、持って帰るお土産としても喜ばれる)。
- ・ 食事中の飲物には、冷たい水を出すことよい(正式な飲物とされる)。テーブルの上に水を入れたポットがあるとよい。
- ・ 食後に甘いお菓子を出すと、とても喜ばれる。

<サービス>

- ・ 辛み、甘み、酸味、塩味の調和がおいしい料理の条件だと考えているので、自分でお好みの味付けができるように、香辛料、調味料、わさび、砂糖、酢、トウガラシなどをテーブルの上に配置しておくことよい。
- ・ 紅茶やコーヒーだけでなく、麺類やスープ類などにも砂糖を入れることがあるため、準備を用意しておくことよい。
- ・ マレー系イスラム教徒、中華系の観音信仰信徒、牛肉を食べないタイ人が存在するため、食べられない食材について必ず確認する。

<その他>

- ・ タイでは、人は見かけで判断されるものであるため、暑い時期にも、きちとした服装でお迎えする方がよい。また、汗くさいこともマイナスのイメージを持たれる。
- ・ 暑いタイでは長距離を歩く習慣がないため、タイ人を相手にスケジュールを立てる場合には、徒歩での移動はできるだけ少なくする方がよい。

食事以外の禁止事項

- ・ 王室、僧侶、仏像に敬意を払わなければいけない。
- ・ 特に、神聖な王室を批判すること、国旗を粗末に扱うことは許さず、法的にも厳しく罰せられる。
- ・ 女性は、僧侶の身体・衣・持ち物に触れてはならない。
- ・ タイ人の体、特にタイの女性の体に触れてはならない。

- ・ 頭は神聖なものだと考えられており、人の頭（子供の頭も）を触らない。頭に付いたほこりを取ることは、人の頭越しにものをやり取りすることもよくない。
- ・ 足は不浄なものだと考えられており、神仏や人に足を向けること、足を使って何かすること（足でものを指す、扉を閉めるなど）人の身体をまたぐことは避けなければならない。足も組まない方がよい。
- ・ 第三者の前で、相手の自尊心を傷つけるような言動（叱りつけるなど）は避けなければならない。
- ・ 露出の多い服装ははしたないと思われるため、避ける方がよい。
- ・ 公衆の面前で男女が身体を触れ合って愛情を表すことは、避けるべきである。
- ・ どちらかというと、汗水をたらして労働することを忌む傾向がみられる。きれい好きのため、汗臭いことはマイナスのイメージにつながる。

（３）タイに関する情報の問い合わせ先

- ・ 在京タイ王国大使館
〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-14-6
領事部 TEL：03-3441-1386（電話受付時間 14:00-17:30）
FAX：03-3441-2597
Website：http://www.thaiembassy.jp/rte1/
休日：土日祝祭日（詳細はホームページを確認のこと）
- ・ タイ国政府観光庁 東京事務所
〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-7-1 有楽町電気ビル南館 2F
TEL：03-3218-0355
Website：http://www.thailandtravel.or.jp/
営業時間：平日 9:30～12:00、13:00～17:00
休日：土日祝祭日
<管轄エリア> 北海道・東北・石川・富山・新潟・関東・静岡
- ・ タイ国政府観光庁 大阪事務所
〒550-0014 大阪市西区北堀江 1-6-8 テクノブル四ツ橋ビル 3F
TEL：06-6543-6654、6655、FAX：06-6543-6660
Website：http://www.thailandtravel.or.jp/
営業時間：平日 9:30～12:00、13:00～17:00、休日：土日祝祭日
<管轄エリア>
福井・岐阜・愛知・三重・近畿・島根・鳥取・岡山・徳島・香川

- ・ タイ国政府観光庁 福岡事務所
〒810-0001 福岡市中央区天神 1-4-2 エルガーラ 6F
TEL : 092-725-8808、FAX : 092-735-4434
Website : <http://www.thailandtravel.or.jp/>
営業時間 : 平日 9:30 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00
休日 : 土日祝祭日
<管轄エリア> 九州・沖縄・高知・愛媛・広島・山口